



官民連携事業の推進のための地方プラットフォーム「サウンディング」

事業名：千曲市総合運動公園事業

令和4年(2022)

長野県 千曲市

建設部 都市計画課



# 千曲市の紹介

(千曲市公式ホームページより)

## 位置・地勢



千曲市は、長野県北信地域の南東部に位置し、西は冠着山(かむりきやま)、東は鏡台山をはじめとする山地に囲まれています。そのほぼ中央を、東南から北東に大きく曲がりながら千曲川が流れています。千曲川をはさんで両岸には平坦部が広がり、北は善光寺平に接しています。

標高の最高地点は大林山で1,333m、最低地点は雨宮起返下ノ割の水田353mです。

現在、市の北部には、首都圏と北陸圏を結ぶ上信越自動車道と、中央自動車道につながる長野自動車道が結ばれる更埴ジャンクションがあり、高速交通網の要の役を果たしています。

## 産業



古くから善光寺参りの精進落としの湯として栄えてきた戸倉上山田温泉は、開湯100年を経て信州屈指の温泉街を形成し、周囲には「さらしなの里」「名月の里」「あんずの里」が広がる魅力ある観光地です。千曲川の豊かな水によって育まれた肥沃な大地に恵まれ、「日本一」といわれるトルコギキョウを中心とした花卉栽培、リンゴやブドウなど多品目の果樹栽培が盛んです。また、観光とのタイアップによる姨捨棚田のオーナー制度、「一目十万本」といわれる「日本一のあんずの里」など魅力ある農業を進めています。首都圏と北陸圏を結ぶ高速道のジャンクションという立地を活かし、最先端のハイテク産業、精密加工業、食品産業が育っています。

## 人口



**58,852人(令和2年国勢調査)**

※人口は減少傾向が続いており、ここ数年は企業誘致や住宅地の分譲による影響で社会増になっているが、出生より死亡が多いため自然減の数が上回り、人口は減少している状態となっております。

R3年:【社会増減 転入:1,687人、転出:1,477人 差:+210人】

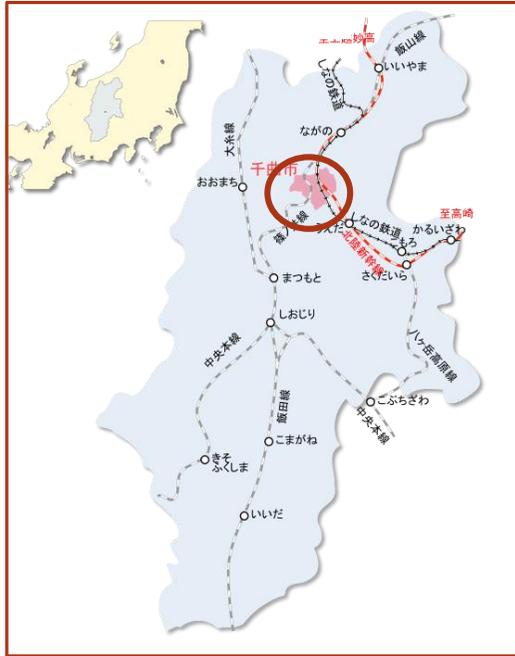
【自然増減 出生:334人、死亡808人 差:-474人】 社会増減 - 自然増減 = -264人(自然減となる)

## 地域のみどころ

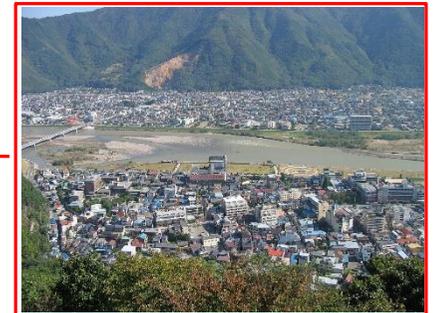
- 名所 : あんずの里、姨捨の棚田、戸倉上山田温泉(千曲川河畔)、大池キャンプ場
- 公園 : あんずの里スケッチパーク、あんずの里アグリパーク、戸倉宿キティパーク、千曲川萬葉公園、湯の里親水パーク
- 史跡 : 科野の里歴史公園 森將軍塚古墳、城山史跡公園
- 博物館・資料館など : アートまちかど、ふる里漫画館、稲荷山宿蔵し館、さらしなの里歴史資料館、長野県立歴史館
- 神社・仏閣 : 武水別神社、放光院長楽寺、長雲寺、水上布奈山神社、智識寺大御堂
- イベント : あんずまつり、牛に引かれて善光寺詣り、戸倉上山田温泉夏まつり、稲荷山祇園祭、千曲川納涼煙火大会、縄文まつり、森將軍塚まつり、荒砥城まつり



# 千曲市の観光資源



このエリア



## 千曲市の土地利用

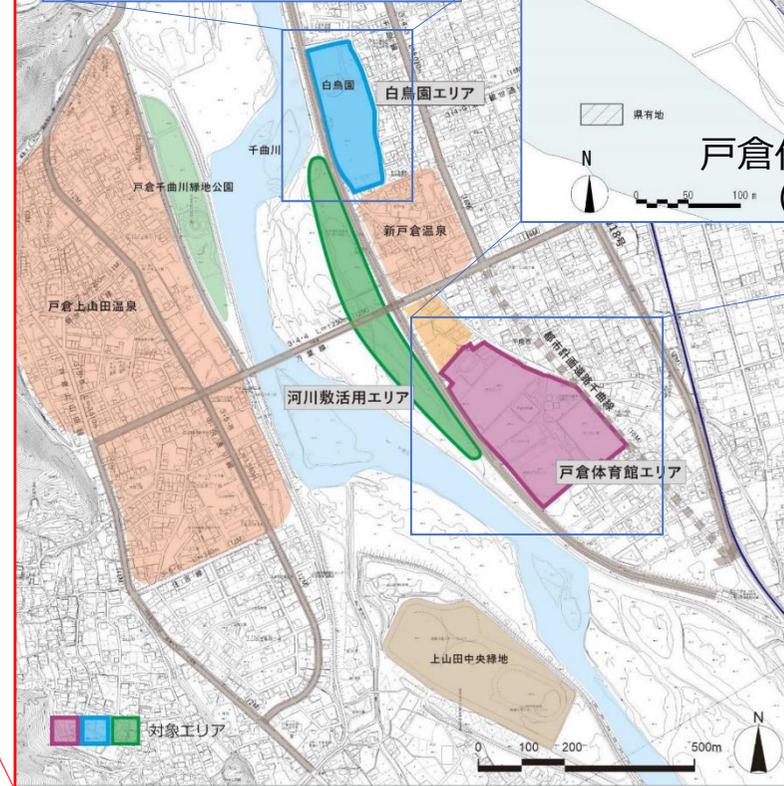
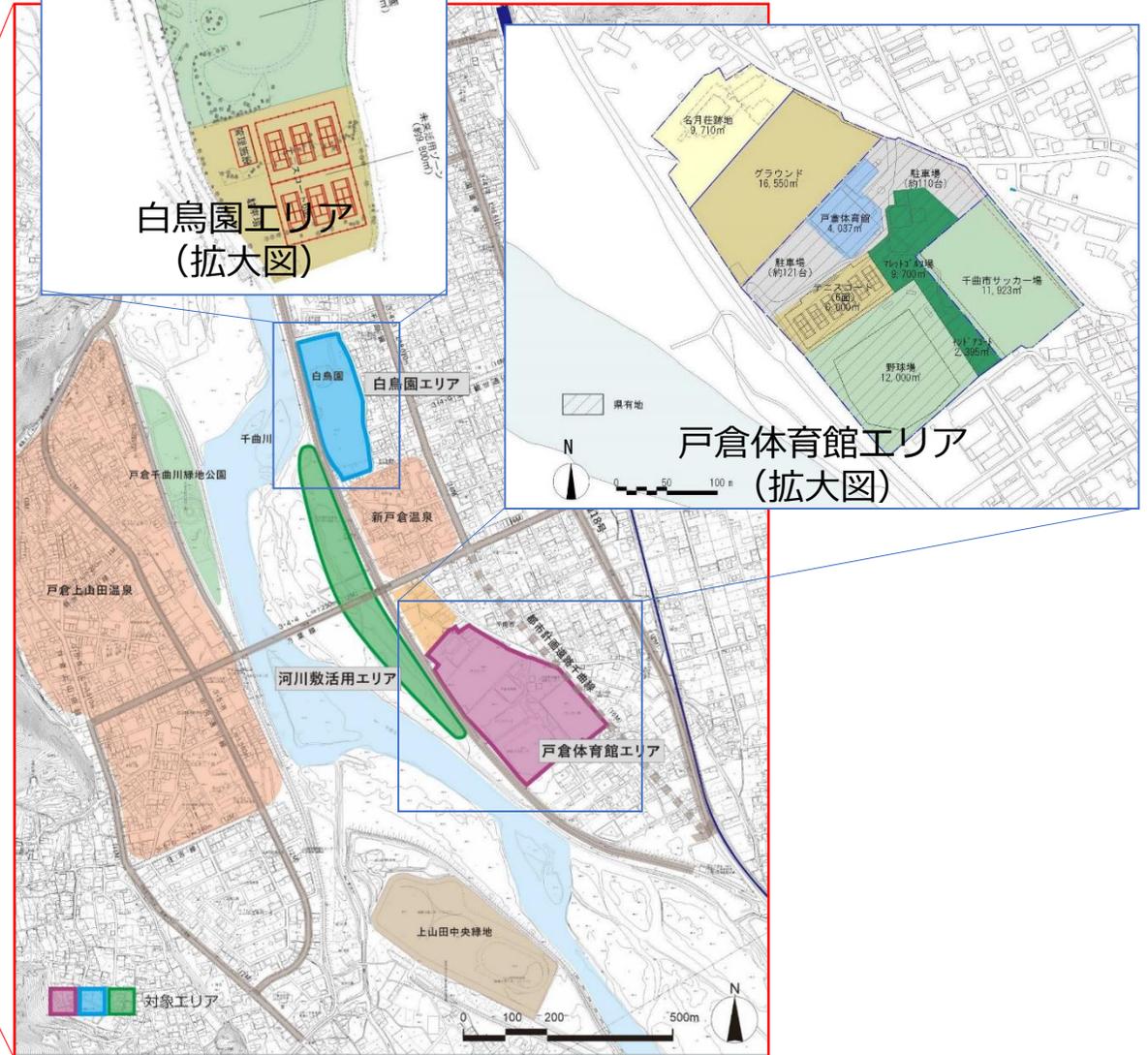
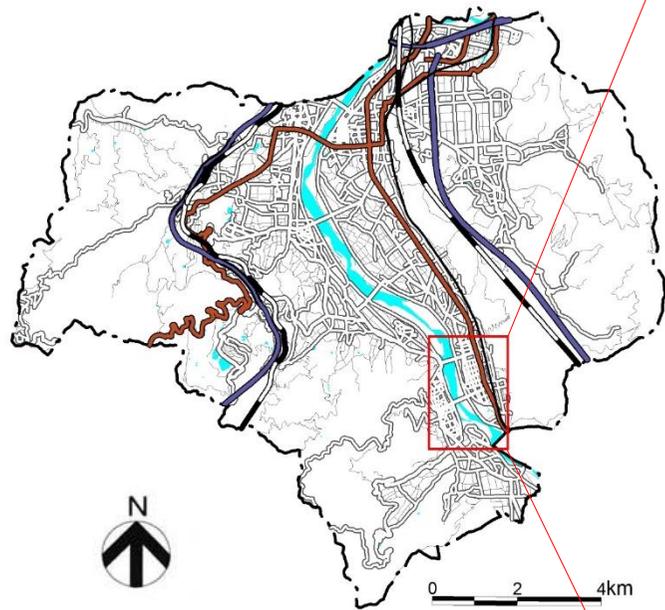
総面積：約 120 km<sup>2</sup>  
 特徴：山林としての中央を流れる千曲川が市の面積の6割を占め、千曲川両岸の平坦部が「住宅・市街地ゾーン」、その外側山林までのエリアが「農業生産推進ゾーン」、山林地帯が「自然保護ゾーン」と大きく3つに分けることができます。

## 戸倉上山田温泉の土地利用

エリア面積：約 1.30 km<sup>2</sup> (千曲川、戸倉体育館含む)  
 上山田温泉の特徴：一部土地区画整理事業済み、旅館や飲食店などが立ち並ぶ  
 戸倉温泉の特徴：歴史ある日帰り入浴施設多数、住宅地の中に各施設が配置されている

# 総合運動公園の位置(対象範囲)

基本構想の検討にあたっては、長野市と上田市の間に位置する本市の立地条件を踏まえ、全市的な観点から、周辺資源の活用や連携も図りながら、戸倉体育館エリアと白鳥園エリア、さらには両エリアをつなぐ河川敷エリアを主対象として検討を進めます。



# 今回の目的

「施設整備」は手段であり過程、今回は「まちづくり」だ！

千曲市の戸倉地域にある、戸倉体育館と白鳥園、また、その両施設を結ぶように隣接する河川敷を含めた総合運動公園を計画しております。

また、各エリアの整備・検討はもちろんのこと、戸倉体育館エリアに隣接する都市計画道路千曲線や周辺道路整備等も含めた構想とすると共に、**地域資源を活用した市民の健康増進、交流人口の増加を目指し、一体的なまちづくり**を念頭に魅力的でわくわくする未来を描くビジョンを実現していきます。（令和4年度末に基本構想策定予定）

## 戸倉体育館エリア

開湯から120年を超える戸倉上山田温泉街に隣接しているため、市民利用だけではなく合宿や大会などの開催も行われる施設ですが、整備から40年以上経過しており、野球場の建設や体育館の建て替え等施設の見直しを含んで、利用者ニーズを踏まえた、「時代にあったスポーツ施設の集積地としてのリニューアル」が求められています。

また、将来、地元での受け入れが求められる中学生・高校生の活動のメインエリアとしても期待される事業でもあり、市内外からのアクセス性の良さ、宿泊施設との近さなどを最大限に生かした市民利用及び合宿や大会などの交流人口増加のための運動施設の再整備を目指しております。

## 白鳥園エリア

白鳥園は日帰り入浴施設で、老朽化により平成27年にリニューアルオープンいたしました。館内には飲食スペースなどがあり、年間来場者数は約16万人（新型コロナウイルスまん延以前）と市民の憩いの場として、また、リニューアルオープン前は天皇陛下も宿泊した経験がある古くから地域に愛されている施設です。

そんな白鳥園ですが、建設当時は公園の中にある温泉施設としてのコンセプトを持ち、年間来場者数25万人を目標に敷地の3分の1程度の敷地に入浴施設を整備しました。

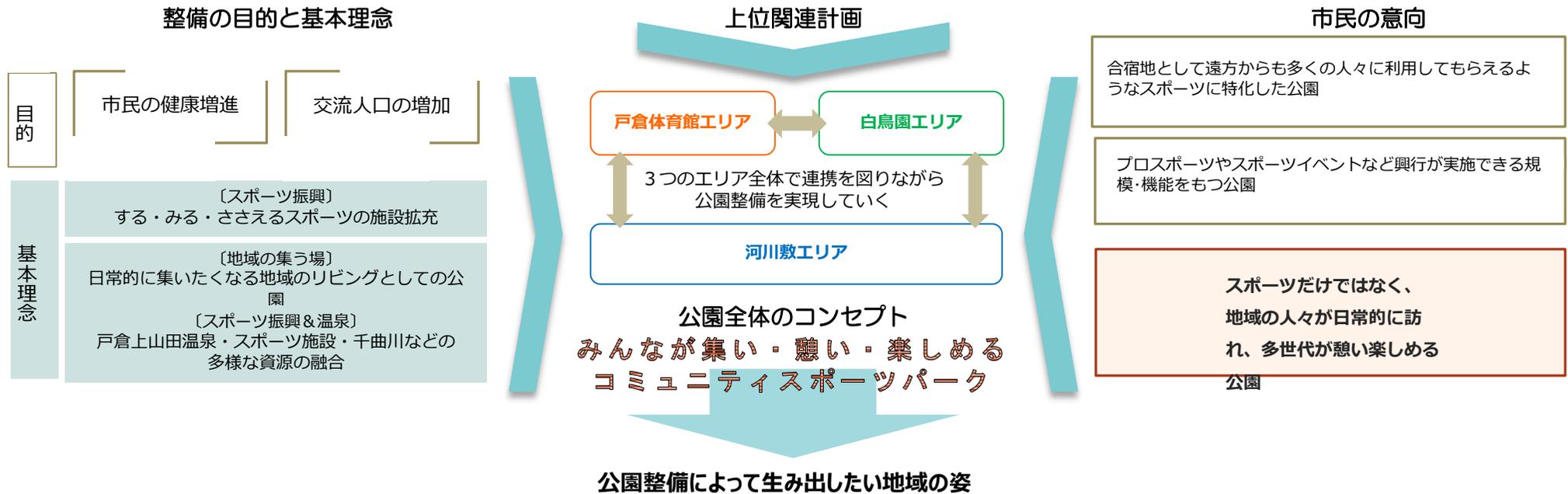
しかし財政的な理由などにより、入浴施設以外の公園施設等の整備を見送っておりましたが、令和5年度より敷地のおよそ3分の1に市民と協働による公園整備を行うことが決定しています。温泉施設のみでも16万人の入館があったことから、公園施設の整備を行うことで更なる来場者が見込める施設となります。

そこで残りの3分の1の敷地を有効活用し、白鳥園の更なる集客や高齢者や子育て世代の拠り所・憩いの場となることを目指しております。

## 河川敷エリア

千曲市の名前の由来である千曲川の河川敷を国土交通省千曲川河川事務所と協力し、「かわまちづくり制度」を活用して、河川敷の有効活用や、BBQなどのアウトドア施設や川と触れ合う遊水地の整備をとおして、身近にある自然に触れ合う場の創出を目指しております。

# 総合運動公園のコンセプトと目指す地域の姿



## 健康的に暮らす風景

周囲の山々や千曲川の流れ、温泉街などが織りなす風景のなかで、さわやかにスポーツに親しむ人々の姿。訪れた人々に地域の健やかなライフスタイルを想像させる風景が作り出される。

### <キーワード>

- ・市民の健康的なライフスタイル
- ・さわやかな風
- ・スポーツが似合うまち
- ・千曲川沿いを走る、歩く
- ・気軽に体を動かせる

## にぎやかで楽しい時間

地域内外の人々が集い、にぎやかに過ごす時間。ヒトやモノが行き交い、楽しいコトが生まれ、思い出が積み重なっていく。公園に人々が集まり交流することでまちが活気づき元気が生まれる。

### <キーワード>

- ・様々な人、もの、声が行き交う
- ・お祭り、市、イベント
- ・文化、アート、音楽
- ・笑顔があふれる
- ・地域の魅力の再発見
- ・まちが魅力的に

## 日常を彩る憩いの空間

ひとりで過ごしたり、背中合わせで一息つく。人々がゆるくつながり、ゆったりとした時間が流れる。地域のリビングとなる空間がここに生み出される。

### <キーワード>

- ・いつも誰かいる、安心する
- ・日々の休息、癒し
- ・四季を感じる
- ・ゆったりとした時間
- ・おいしいコーヒーを飲む
- ・心と体を整える

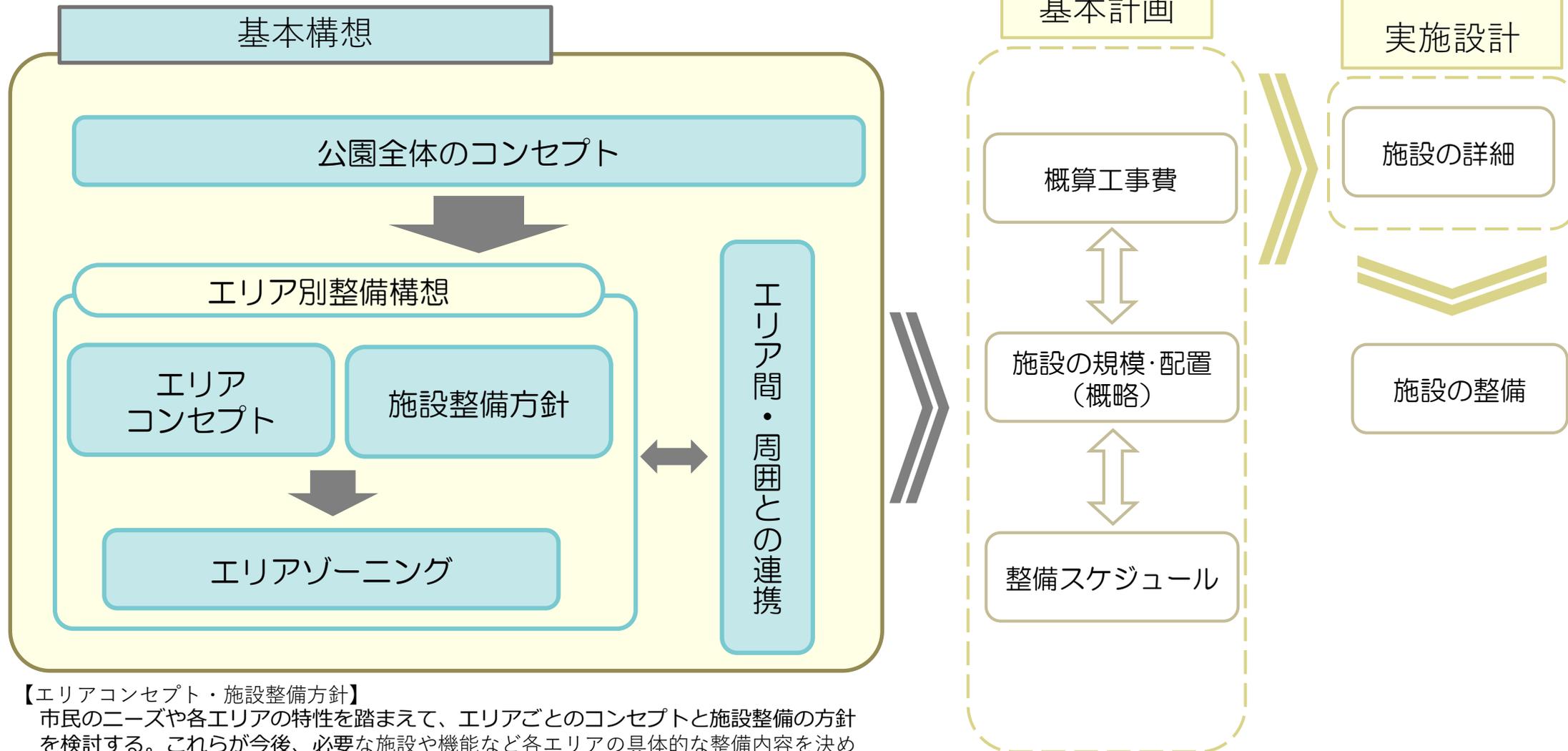
## 熱いスポーツ交流・コミュニティ

楽しむスポーツ、人を育てるスポーツ、交流を生み出すスポーツ。多様な世代・地域内外の人々がスポーツを通じて、新たなコミュニティを育み、まちとつながり、地域が盛り上がる。

### <キーワード>

- ・地域内外の人々が訪れる
- ・スポーツをきっかけにした交流
- ・熱狂が生まれる
- ・スポーツが人を育てる
- ・温泉街とつながる

## 基本構想で検討・決定する部分と今後の進め方



### 【エリアコンセプト・施設整備方針】

市民のニーズや各エリアの特性を踏まえて、エリアごとのコンセプトと施設整備の方針を検討する。これらが今後、必要な施設や機能など各エリアの具体的な整備内容を決める際の指針となる。

### 【エリアゾーニング】

エリアコンセプトや施設整備方針をもとに、「施設の種類」と「概ねの規模感」を想定して検討する。

### 【エリア間・周囲との連携】

エリア間や温泉街など各エリア周辺部との連携、交通ネットワークなどを検討する。

### 【基本計画で検討・決定する部分】

- ・必要な施設の整理
- ・整備手法の検討
- ・公共施設個別計画や財源との調整

# 戸倉体育館エリアの現状

## ●Aグラウンド

- ・両翼82m
- ・平成30年度利用者数：11,578人

## ●Bグラウンド

- ・両翼76m

## ●共通

- ・令和元年度の台風19号による災害ゴミ置き場となったため、令和元年10月から翌年5月まで利用を休止。



## ●サッカー場

- ・全面人工芝として平成19年に竣工。
- ・サッカー場の土地は、元々県の所有地であったが、市が取得し建設。
- ・平成24年に観客席設置工事。
- ・一般用：1面、少年用：2面
- ・令和元年度利用者数：44,325人
- ・北信越リーグの公式戦は行えるが、JFLの公式戦は行えない。
- ・J3のAC長野パルセイロは練習で利用している。
- ・住宅地が近いため拡声は禁止（鳴り物の応援など）。
- ・芝生のメンテナンス用でピッチ内にはミストが設置されている。



## ●アリーナ

- ・昭和52年度に完成
- ・面積：1,503㎡（45m×33.4m）
- ・バスケットボール2面、バレーボール3面、バドミントン6面、テニス2面、ハンドボール1面
- ・2階観客席は約760席。
- ・令和元年度の利用者数：27,203人（908件）。
- ・令和5年度に非構造部材耐震化工事を予定。

## ●剣道場

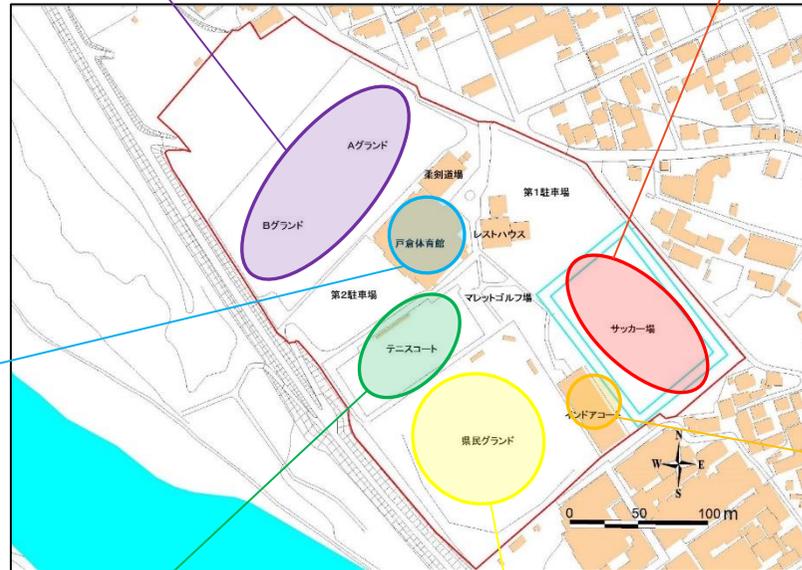
- ・面積：183㎡（14.1m×13.0m）。
- ・令和元年度利用者数：5,285人。

## ●柔道場

- ・面積：244㎡（14.4m×16.5m）。
- ・令和元年度利用者数：3,462人。

## ●トレーニング室

- ・面積：180㎡
- ・19種類のトレーニング機器があり、幅広い年代の方の利用がある。
- ・令和元年度利用者数は、5,444人。



## ●インドアテニスコート

- ・平成12年度に竣工
- ・ゲートボール2面、テニスコート1面
- ・令和元年度利用者数：5,440人
- ・室内のテニスコートはこの1カ所のみ。
- ・屋内ゲートボール施設は市内で3カ所。戸倉上山田地区では唯一の施設。
- ・クレイコート
- ・ソフトテニスも利用している。



## ●テニスコート

- ・県の施設で市が指定管理者として管理。
  - ・コート数：6面
  - ・令和元年度利用者数：1,687人
  - ・クレイコート
  - ・市内の他のテニスコート
- |            |          |         |
|------------|----------|---------|
| 更埴テニスコート   | ：全天候型コート | 4面、夜間照明 |
| 更埴東部テニスコート | ：全天候型コート | 4面、夜間照明 |
| 上山田多目的運動場  | ：全天候型コート | 2面      |
| ホテル清風園     | ：全天候型コート | 2面      |



## ●県民グラウンド

- ・施設は県の施設で、市が指定管理者として管理。
- ・両翼90m
- ・令和元年度利用者数：4,954人
- ・利用のほとんどは野球。
- ・スポーツ少年団の練習、生涯野球、早起き野球で利用されている。
- ・社会人野球の地区大会に利用されている。
- ・合併直後から毎年、野球団体からのナイター設備の要望がある。
- ・過去の議会では、この構想に合わせて検討を重ねるとなっている。



公園全体のコンセプト

みんなが集い・憩い・楽しめるコミュニティスポーツパーク

生み出したい地域の姿

健康的に暮らす風景

にぎやかで楽しい時間

日常を彩る憩いの空間

熱いスポーツ交流・コミュニティ

整合

エリアコンセプト  
(案)

市内外から多くの人に愛され、親しまれる、憩いのスポーツ交流拠点

施設整備方針 (案)

方針 1

全市的な視点や敷地条件、  
ニーズ等を総合的に踏まえた機能整理

今後の整備や機能強化の重要性の高いスポーツの施設の機能強化を図る一方で、一部のスポーツ施設は他のエリアや市内の別の場所への機能移転を図る。

方針 2

多目的性・多機能性を重視した施設整備

多様なスポーツへの市民の関心、スポーツ合宿や大会あるいはスポーツ以外の様々な利用形態への対応や、子どもの遊び場など多様なニーズも踏まえて、多機能で多目的に使える施設整備を重視する。

方針 3

中長期を見据えた、  
持続可能で質の高い施設整備

各スポーツ施設の現状における利用や今後の施設改修の予定等を踏まえ、中長期を見据えて質の高い施設を段階的に整備する。

既存施設の規模・機能の方針整理

第二回スポーツ施設部会の意見をもとに作成

施設	縮小	現状維持	拡張
体育館	×	○	◎
サッカー場	×	○	◎
県民グラウンド	○	○	○
A・Bグラウンド	○	○	○
テニスコート	◎	○	×
マレットゴルフ場	◎	○	×
インドアコート	◎	○	×

ゾーニングイメージ



具体的な施設配置を検討した部会ワークショップでの意見とそれに関連するアンケート等の意見

体育館の規模や機能について

**観客席**  
・ 席数を増やすべき  
**アリーナの広さ**  
・ 塩尻市総合体育館と同規模程度で十分  
・ たとえばハンドボールコート複数面取れるなど具体的な計画をする

遊び場などのオープンスペースについて

**よい点** スポーツをする人だけでなく家族も楽しめる

**課題** このエリアはスポーツに特化した方がよいのではないか

観客席のある野球場

**よい点** 大会等を誘致できる

**課題** ・ 単一利用に限られる  
・ 施設の維持管理費が高い

多目的グラウンド

**よい点** 多種目の利用ができる

**課題** 配置によってはグラウンドがただ広い印象になる

# 白鳥園エリアの現状

## ●白鳥園

### ①設置の目的

市民の健康増進と融和を図るとともに、地域の活性化及び介護予防に資すること

### ②施設の概要

- 1 階：地域交流室
- 2 階：浴室（内湯、露天風呂、サウナ）  
休憩室  
食堂等

駐車場：200台（第1駐車場127台、第2駐車場73台）

### ③運営状況

現在の白鳥園の入館料と平成30年度の入館者数は以下の通りである。

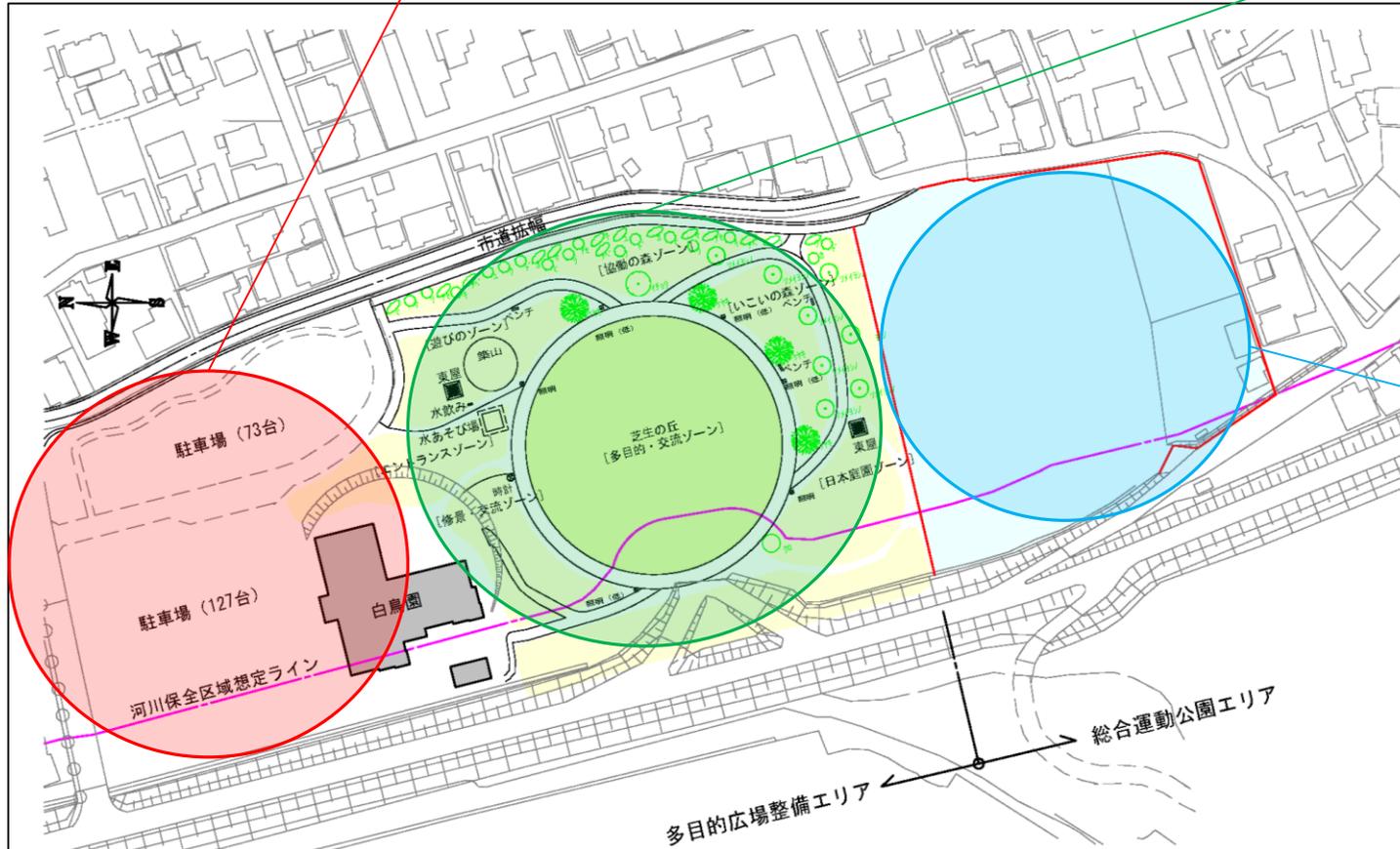


## ●協働の公園

白鳥園協働の公園づくり事業により、令和5年度、6年度に多目的広場の整備が予定されている。

### 整備の概要

芝生の丘を中心として、園路によって周囲の東屋、水あそび場、植栽帯などをつなぎ、市民の憩いの場として整備する計画



## ●総合運動公園エリア

長年未活用となっている敷地  
所有は市のため、イベント時の臨時駐車場や、災害時の市財置場等で活用しております。

この土地の有効活用により、白鳥園エリア全体の集客を目指しています。



みんなが集い・憩い・楽しめるコミュニティスポーツパーク

生み出したい地域の姿

↑  
整合

エリアコンセプト  
(案)

多世代が集い交流し、心も体もあたたまる憩いの庭

施設整備方針 (案)

方針1 白鳥園や周辺部の  
機能や魅力を引き出す空間活用

白鳥園（温泉施設や飲食スペースなど）の機能や隣接する芝生広場や河川敷など周辺部の魅力を最大限に引き出し、一帯が有機的につながる空間活用を図る。

方針2 公園全体の機能を  
補完・強化する施設整備

堤内地のまとまった低未利用地として、他のエリアで必要性がありながらも再整備困難な既存施設や、同工エリアでは担保しきれない機能を補完する施設整備をする。

方針3 多くの人滞りして  
楽しめる特色ある施設整備

他にはない特色のある施設整備により、できるだけ多くの人が集い、滞在して楽しめる施設の導入を図る。

ゾーニングイメージ



[魅力創出ゾーン 別名：otanoshimiゾーン（仮称）]における導入施設の検討

このゾーンは、民間活力の導入も念頭に置きながらこの白鳥園エリアがもっと楽しくなり、総合運動公園がさらに魅力的になっていくような施設の導入を検討します。

第一回公園づくり部会・まちづくり部会での検討パターンと意見

基本構想では具体的な施設を配置したパターンをもとに部会で意見を出し合い、エリアコンセプトや導入する施設に求める条件などを整理し、提示する。

早い段階から民間事業者との意見交換を経て、条件に合う事業者とのマッチングを行い、選定を行う。導入施設の具体的な検討を共に行い決定していく。

① 子どものあそび場

- よい点
- ・家族連れが利用し、白鳥園の利用増が見込める
  - ・多目的広場との一体感がある
- 課題
- ・特色のある施設でないと利用が見込めない
  - ・多目的広場との差別化（屋内施設など）

② テニスコート

- よい点
- ・現状の機能を担保できる
  - ・スポーツのあとの温泉利用が見込める
- 課題
- ・テニスコートの利用が盛んでないと白鳥園の利用が見込めない
  - ・利用者が限られ、日常的に集まる場にならない
  - ・現状の利用実態を踏まえた検討が必要

③ ニュースポーツ

- よい点
- ・特色があり、集客力がある
  - ・スケートボードができる場は少ないため差別化できる
- 課題
- ・中長期的なニーズがあるのか
  - ・白鳥園の利用につながるか
  - ・利用者が限られる、騒音が懸念される

# 河川敷エリアの現状



## ●河川敷

土地所有：国有地及び市有地（周辺には一部民地あり）

### 整備概要

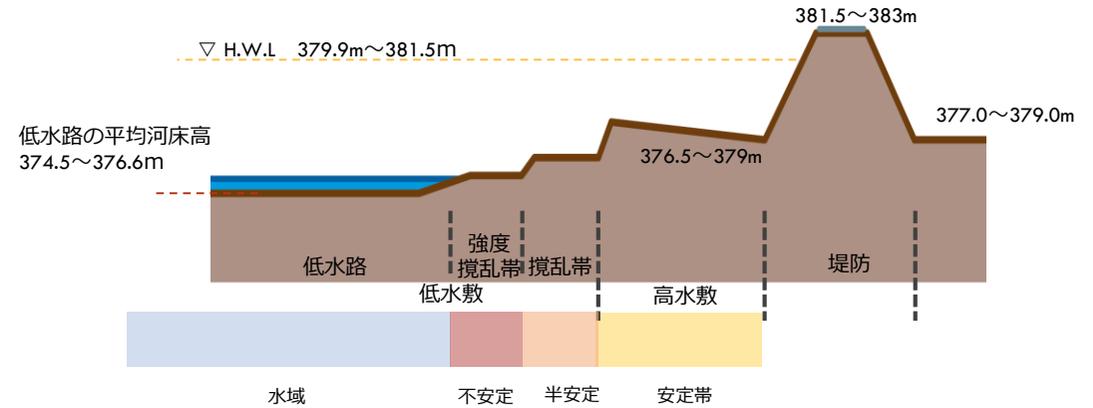
かわまちづくり事業にて護岸整備等を予定（R7着工予定）  
自然空間を生きながらアウトドアや千曲川で安全に遊べる空間づくりを目指しています。

現地形を活かしながらも、護岸工などを適切に設けることで、環境や地形を誘導することも考えられる。

川の水による攪乱の頻度が高く不安定なため、積極的な整備を考えにくいゾーン

河川敷ならではの植生がみられるため、保全を考慮した整備を考えるべきゾーン

地形が比較的变化しにくいいため、積極的な整備を考えやすいゾーン



公園全体のコンセプト

みんなが集い・憩い・楽しめるコミュニティスポーツパーク

生み出したい地域の姿

健康的に暮らす風景

にぎやかで楽しい時間

日常を彩る憩いの空間

熱いスポーツ交流・コミュニティ

整合

エリアコンセプト  
(案)

かわ・まち・ひとをつなぎ、にぎわいへといざなう清流の架け橋

施設整備方針 (案)

方針 1

水害リスクを考慮した施設整備

水害に対する改修負担や機能不全リスクを考慮し、代替・一時的な利用停止可能な施設を整備する。

方針 2

川の流れや地形を活かし、自然環境と共生できる空間活用

河川の生態系保全も重要視し、河川断面や滯すじを考慮したゾーニングを行う。

方針 3

河川空間の魅力を引き出し、水辺とまちがつながる空間創造

河川空間の特性や魅力を引き出して、人々を誘い、エリア間さらには水辺とまちが有機的につながる空間をつくり出す。

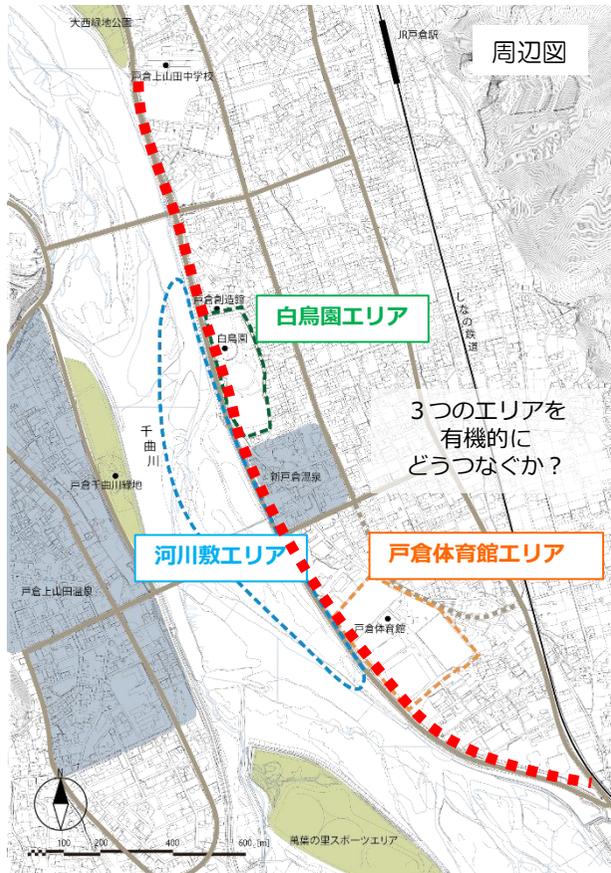
ゾーニングイメージ



「かわまちづくり」支援制度の活用

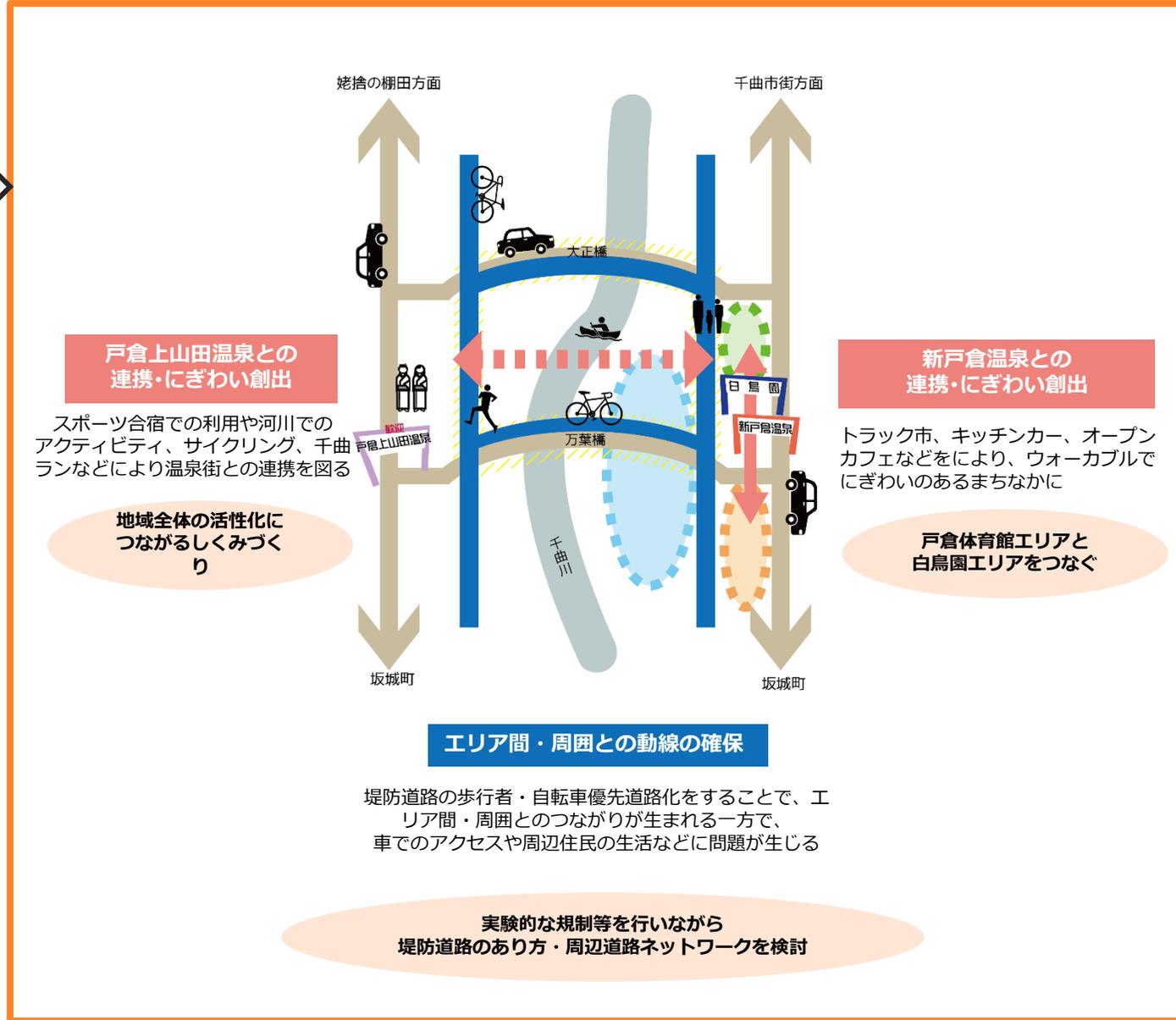
市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組であり、ハード・ソフト両面の支援を受けることができます。かわまちづくり計画を作成し、認定を受けると事業着手することができます。完成後の管理主体など組織体制が課題です。

# エリア間・周辺との連携の検討状況



千曲川右岸の堤防道路は、現在の交通状況においては、白鳥園エリアと河川敷エリア、戸倉体育館エリアと河川敷エリアの間の大きな分断要素となっている。

エリア間・周辺との連携構想図



# 戸倉上山田温泉周辺の現状

昭和後期から平成初期に、夜の街として栄えた温泉街である戸倉上山田温泉ですが、時代の流れや新型コロナウイルス感染拡大の影響により、新たな取組が求められるようになりました。各旅館は対応するためにワーケーション事業と合わせ客室の有効活用やWi-Fi整備など工夫を凝らしていますが、多くの飲食店の閉店など多くの課題があります。

また、対岸の戸倉体育館周辺は運動施設の老朽化、白鳥園施設に隣接する未利用地など、財政的理由により、市民に望まれながらも未整備となっている公共事業(施設)が抱える課題も多くあります。

公共用地を活用した新たな取組、宿泊人数4,000人/日のキャパを持つ温泉街を活用した誘客施策が急がれるのが現状です。

## 上山田地区

### ○地域の概要

新型コロナ前は企業の説明会や学校単位での合宿、インバウンドに対応した温泉施設が多く外国人ツアーの受入など、個人(家族)利用も一定数あったが、温泉街全体でみると団体利用も多く、歓楽街というイメージもあり、週末や忘年会シーズンなどは宿泊施設が満室になるくらいの賑わいをみせていました。

新型コロナが感染拡大後は、個人客(家族や仕事)を中心に需要が高まり、滞在時間が長い客層に変わりつつあります。

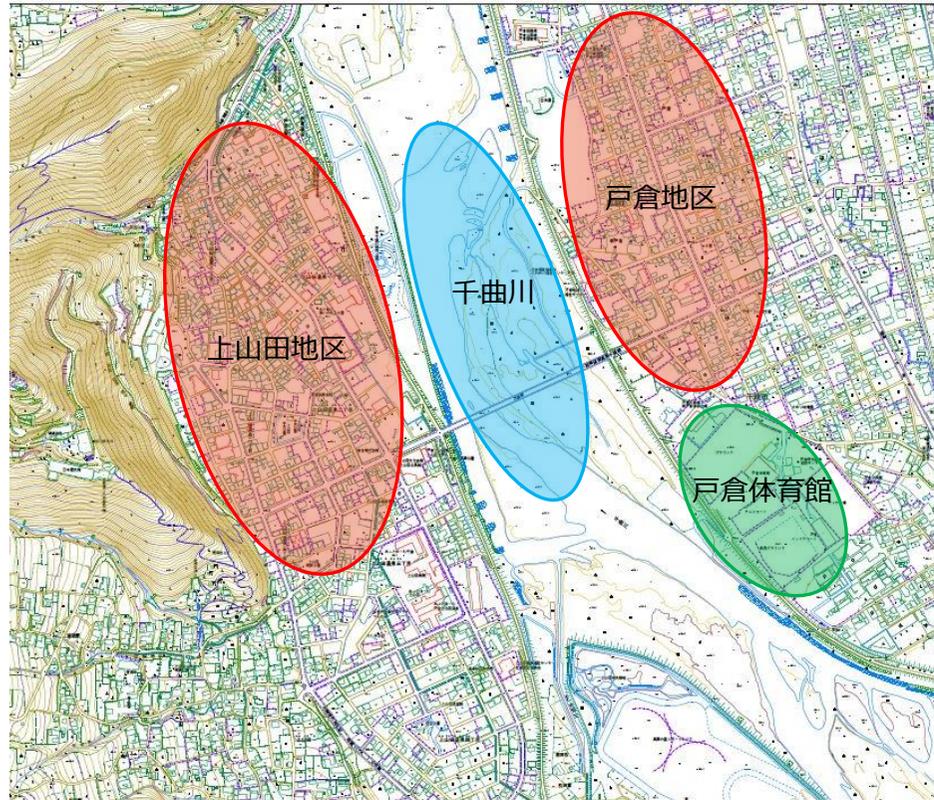
また、ワーケーションなどの取組により、新たな発想が生まれる地として、企業からも注目されるエリアになってきました。

## 周辺施設

### ○戸倉体育館

開湯から120年を超える戸倉上山田温泉街に隣接しているため、市民利用だけではなく合宿や大会などの開催も行われる施設ですが、整備から40年以上経過しており、野球場の建設や体育館の建て替え等施設の見直しを含んで、利用者ニーズを踏まえた、「時代にあったスポーツ施設の集積地としてのリニューアル」が求められています。

また、将来、地元での受け入れが求められる中学生・高校生の活動のメインエリアとしても期待される事業でもあり、市内外からのアクセス性の良さ、宿泊施設との近さなどを最大限に生かした市民利用及び合宿や大会などの交流人口増加のための運動施設の再整備を目指しております。



## 戸倉地区

### ○主な利用客

上山田地区と違い、市民利用がメインの施設が多くあります。歴史ある日帰り入浴施設や平成27年にリニューアルオープンした市管理の入浴施設白鳥園は、館内には飲食スペースなどがあり、年間来場者数は約16万人(新型コロナウイルスまん延以前)と市民の憩いの場として、また、リニューアル前は天皇陛下も宿泊した経験がある古くから地域に愛されている施設もあります。

しかし財政的な理由などにより、入浴施設以外の公園施設等の整備を見送っていましたが、令和5年度より敷地のおよそ3分の1に市民と協働による公園整備を行うことが決定しています。温泉施設のみでも16万人の入館があったことから、公園施設の整備を行うことで更なる来場者が見込める施設となります。

そこで残りの3分の1の敷地を有効活用し、白鳥園の更なる集客や高齢者や子育て世代の憩いの場となることを目指しております。

### ○千曲川(河川敷)

千曲市の名前の由来である千曲川。

左岸(上山田地区側)は戸倉千曲川緑地公園として河川敷にある公園施設になっております。

右岸(戸倉地区)の河川敷は国土交通省千曲川河川事務所と協力し、「かわまちづくり制度」を活用して、河川敷の有効活用や、BBQなどのアウトドア施設や川と触れ合う遊水地の整備をととして、身近にある自然に触れ合う場の創出を目指しております。

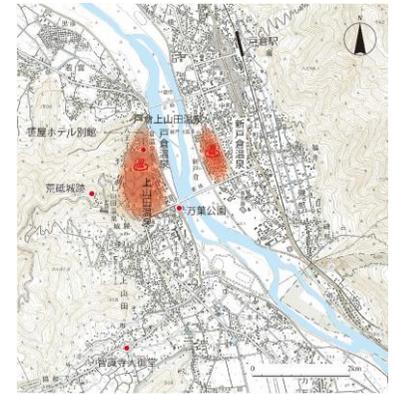
# 戸倉上山田温泉の歴史や行事

(千曲市歴史的風致維持向上計画より)

## ○戸倉上山田温泉の歴史

戸倉上山田温泉地区は、明治元年(1868)に千曲川左岸の河原に温泉が発見され、明治26年(1893)に戸倉温泉、明治36年(1903)に上山田温泉が開湯された。その後、千曲川右岸に新戸倉温泉が開湯された。これらの温泉を総称して「戸倉上山田温泉」と呼んでいます。

戸倉上山田温泉の最盛期は昭和48年(1973)頃で、宿泊者数が年間100万人ほどあり、長野県内では、上諏訪温泉(諏訪市)や浅間温泉(松本市)、湯田中温泉(山ノ内町)などとともに団体旅行で賑わいをみせていた。旅館やホテルの多くは、その頃に建替えられた建物が多く、**昭和のイメージが残る温泉街**となっています。



## ○温泉街

戸倉上山田温泉街の一画にある笹屋ホテル別館は、昭和7年(1932)に建てられた建物で、帝国ホテル設計者のフランク・ロイド・ライトの弟子である建築家遠藤新(えんどうあらた)の設計による木造和風旅館建築である。畳式の座敷と一段下がった椅子置き of 広縁から庭に至る客室構成は、後の旅館建築に大きな影響を与えた。現在登録有形文化財となり、志賀直哉が逗留し「豊年虫(ほうねんむし)」を執筆したことから「豊年虫」と名付けられ、客室として使用されている。ほかにも、木造2階建の旅館建築が温泉街に点在しており、昭和のイメージが残る温泉街を形成しています。

昭和60年(1985)に千曲川左岸の堤防脇に設置された千曲川万葉公園には、千曲川に関わる万葉歌碑や文学碑が32基あり、戸倉上山田温泉の散策コースとして親しまれています。

また、スナックや射的場等が立ち並び、どこか懐かしい**昭和レトロな街並み**となっております。

## ○千曲川納涼花火大会

令和4年度の開催で91回と歴史を重ねる納涼煙火大会が、毎年8月7日に開催されている。戸倉上山田温泉街を正面とするように、温泉街前の千曲川河原で行われ、市内外からの大勢の見物客は堤防上や河川敷から約一万発の花火を見る。この辺りは、千曲川を挟み両岸に山が迫っているため、打ち上げの音が山々にこだまし、ひととき大きく響き迫力のある花火である。



## ○戸倉上山田温泉夏祭

戸倉上山田温泉夏祭は毎年7月中旬の2日間開催される水天宮(すいてんぐう)のお祭りです。

祭りは、住民有志が中心となり観光協会・旅館組合・上山田地区の力石・三本木・新山・八坂・温泉中央自治会などで構成する実行委員会により行われている。祭り1日目は、水天宮での神事により始まり、子供神輿や上山田地区の各自治会による手作りの山車十数基ほどが温泉街を練り歩き、夕刻厳かな雰囲気の中松明行列を先頭に御神体神輿が続き、第2日目は本練りとなり、勇獅子はお囃子さんと芸妓さんを乗せた山車を引き、「どっこい、どっこい」の掛け声とともに温泉街を練り歩く。巡行路の各所に設けられた神酒所や旅館の前で立ち止まり、山車の芸妓さんが手踊りを披露する。神輿は、男性が担ぐ彦神輿と姫神輿、女性が担ぐ華神輿の計4基が勇獅子の後に続き、終番では彦神輿と姫神輿の双方に女性が4名ずつ乗って祭りを盛り上げます。



# 戸倉上山田温泉周辺の姿(こんなビジョンも並行して考えています)

○戸倉上山田温泉での取り組み検討(現在、総合運動公園と平行して検討しております。)

○新たな取組(現在)

コロナ禍において新たな働き方が模索される中、「テレワーク」や「リモートワーク」が浸透しつつあり、各自治体では、この動きに着目した「ワーケーション」(仕事と休暇の造語)による新たな観光需要、定住人口の増加を目的として、取り組みを開始しています。

長野県でも「信州リゾートテレワーク」として当市をはじめ、多くの自治体で取り組みを開始しています。

また、平成29年に施行された自転車活用促進法により、今後増加が期待される自転車活用の観光的取り組みとしてサイクルツーリズムが全国的・県内的にも活発化しています。

サイクルツーリズムは、長野県内のグリーンシーズンにおける集客の落ち込みをカバーする事業としても期待されており、南北に長い長野県はリバーサイド・レイクサイド、里山・日本を代表する高山等コースレイアウトに優れており、体験型観光として期待されます。

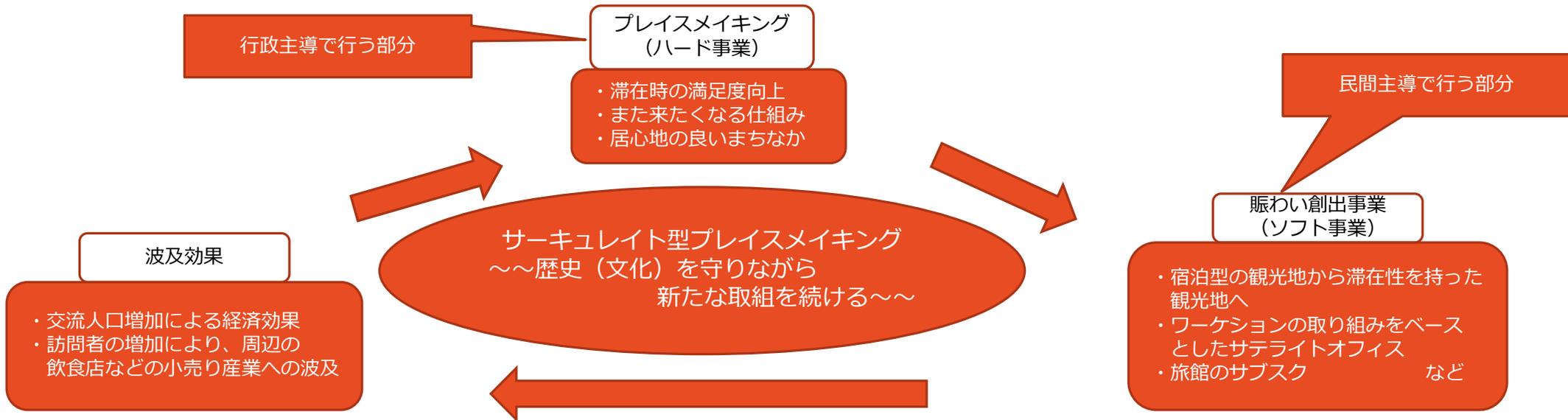
○新たな取組(将来)

近い将来、学校の部活動が縮小され、運動については地域で受け皿を用意する必要があります。また、部活動が縮小されることにより、学校が終わった後の居場所やあらたなチャレンジを行う場の提供が必要になります。

そのため、運動施設の充実や子供達の居場所を確保することが喫緊の課題となります。

○新たな取組(課題解決)

「夜のまち」と呼ばれた温泉街に新しい昼の顔を



# 総合運動公園に期待するSDGSの取り組みの一例

3 すべての人に  
健康と福祉を



・各エリアにランニングコースや気軽に運動できる環境を整えることにより、健康な状態を長くするウィルビーイングの取り組みを体現することにより、新たな健康づくりの仕組みづくりへ寄与することができます。  
また、バリアフリーの施設整備とすることにより、パラ競技の誘致（令和10年国体でもボッチャの会場となります）にも繋がり、誰でも気軽に使うことができる運動施設整備に寄与することができます。

4 質の高い教育を  
みんなに



・温泉旅館があることにより、スポーツを通じた合宿誘致や学校単位での受け入れも可能と考えます。  
また、最先端のスポーツトレーナーや最新設備の導入・実験の地として整備することができれば、学生の体づくり、スポーツを通じた人との繋がりなどのスポーツ教育に寄与することができます。

9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう



・行政として、インフラ整備を中心とした、交通インフラの充実による生活のしやすさ、住み良い住環境整備を行い、企業の活動を支援する取組に寄与します。

11 住み続けられる  
まちづくりを



・中心市街地の中で施設等の集積化が図れる貴重な地域であり、住宅地とも隣接していることから、憩いの公園、気軽に来れる運動施設、交通弱者対策などを進めることにより、誰でも暮らしやすいまちづくりに寄与します。

14 海の豊かさを  
守ろう



合宿誘致により、宿泊期間中の包括的な旅館の支援が可能となり、お弁当などの食事容器を使い捨てから再利用可能なものに変えていき、合宿等の廃プラスチックの軽減に寄与します。  
また、公園や河川敷を活用した千曲川の廃材やごみ等で創る廃材アートなどの取り組みを進めることにより、千曲川のごみの再利用、下流まで流さない取組に寄与します。

# 現在の戸倉上山田温泉周辺の取り組み

## 取組

- ・温泉街の対岸で千曲市総合運動公園整備に向けた基本構想の策定（R4年度末公表予定、R5年度より基本構想に基づき、基本計画を作成し、具体的な整備を行っていく）
- ・千曲市総合運動公園の一部となる、白鳥園の協働の公園づくりをR4：実施設計、R5～：整備開始
- ・国（千曲川河川事務所）、長野県（千曲建設事務所等）との検討体制の構築
- ・温泉旅館の若手経営者を中心とした検討体制の構築
- ・千曲川でSUP体験、シクロクロスの全国大会実施、釣ーリズム など
- ・温泉街を盛り上げるための地元高校生と実施するまちなかイベント など
- ・温泉旅館にWi-Fi整備 など
- ・宿泊客・観光客・地域住民も活用できるシェアサイクルの導入
- ・歩行者優先のまちづくり

# 戸倉上山田温泉地区で将来やりたいこと

## 行政

- ・千曲市総合運動公園の整備（体育館や野球場の再整備、まちなかの憩いの公園整備（残地部分）、国土交通省と進めるかわまちづくり整備）
- ・温泉街のメイン通りを中心とした歩行者優先の街路整備
- ・夜の街と言われた戸倉上山田温泉街に新たな昼の顔を誘致する
- ・地域内交通の新たな手段として、EVカー等の環境面に配慮した新たなモビリティの導入 など

## 民間

- ・戸倉上山田温泉街にある空家や空き地を活用した、居心地のよくなる空間整備を目指した「空き店舗・空き家・空きスペース活用プロジェクト」
- ・昼間人口増加を目指した新たな昼の顔となる「サテライトオフィス・シェアオフィスの誘致」
- ・温泉街に新たなシンボルを！「ランドマーク設置プロジェクト」
- ・老朽化施設の更新に伴う企業と行政の連携を強くした「官民連携による施設整備」

## 現在の取組

- ・温泉街の対岸で千曲市総合運動公園整備に向けた基本構想の策定（R4年度末公表予定、R5年度より基本構想に基づき、基本計画を作成し、具体的な整備を行っていく）
- ・千曲市総合運動公園の一部となる、白鳥園の協働の公園づくりをR4：実施設計、R5～：整備開始
- ・国（千曲川河川事務所）、長野県（千曲建設事務所等）との検討体制の構築
- ・温泉旅館の若手経営者を中心とした検討体制の構築
- ・千曲川でSUP体験、シクロクロスの全国大会実施 など
- ・温泉街を盛り上げるための地元高校生と実施するまちなかイベント など
- ・温泉旅館にWi-Fi整備 など
- ・宿泊客・観光客・地域住民も活用できるシェアサイクルの導入
- ・歩行者優先のまちづくり

# マッチング企業へのPR

## メリットやアセット

- ・新たなまちづくりに参画することにより、地域に溶け込んだ企業となり社会貢献も可能となる。
- ・公民連携事業(運動施設や公園整備、指定管理等)による、公共事業への参画
- ・部活動の地元受入による、スポーツを通じた社会活動
- ・空き店舗等を活用した、地方型サテライトオフィスや企業の新たなチャレンジする場の提供(テナント運営等)
- ・公共交通機関(バス・鉄道)のみで東京都まで約2時間半、自動車移動でも高速交通網が充実していることによる多方面へのアクセス性の充実
- ・隣接する、戸倉上山田温泉にて歩行者優先の街路整備等により、新たな観光地としてのプレイスメイキングを検討中
- ・市内の屋代地区にてSICの誘致をすすめており、SIC周辺の新たなまちづくりも検討中(対象地より車で15分)
- ・日本遺産となった姨捨の棚田や上皇陛下、上皇后陛下も公務ではなく天皇陛下になられてから初めてプライベートとして訪れた、一目十万本と言われるあんずの里、東日本最大の森將軍塚古墳など、自然景観も充実した市となっています。
- ・重要伝統的建造物群として文化庁の認定をもらっている、稻荷山地区には歴史的な建築物が残っており、善光寺までの街道筋には新たな挑戦を行う場所も多く残っております

## サテライトオフィス

- ・サテライトオフィスはございませんが、千曲市版ワーケーションの取り組みを参考にした支援もかろうと考えております。

具体的には旅館の客室を活用した一定期間のサテライトオフィス化や市内にあるコワーキングスペースなどの確保は可能となります。

また、空家バンクを活用した空家情報の提供なども可能となります。

# 【参考に】新型コロナウイルス感染拡大による旅行市場の変化 (第三次千曲市観光振興計画より)

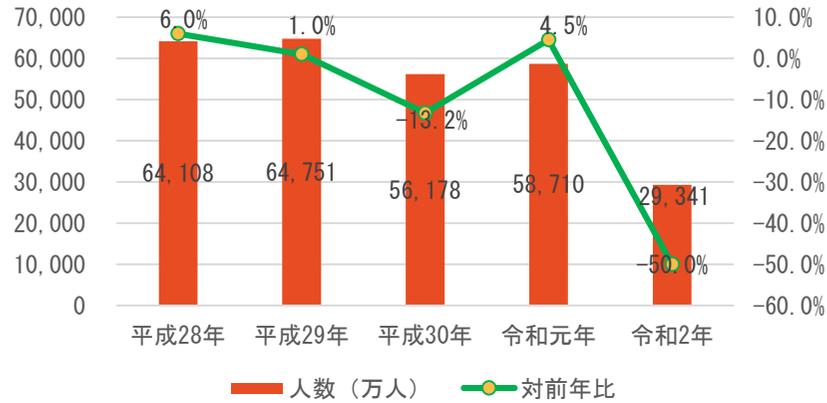
## ○日本人旅行市場の概要

令和2年の日本人国内旅行者数は、2億9341万人(前年比50.0%減)と新型コロナウイルス感染症の拡大による影響により前年を大幅に下回りました。また、宿泊旅行者数についても、1億6070万人(前年比48.4%減)と前年を大幅に下回りました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、国内の観光業をはじめ地域経済に大きな打撃と深刻な影響を与えました。

グラフ①

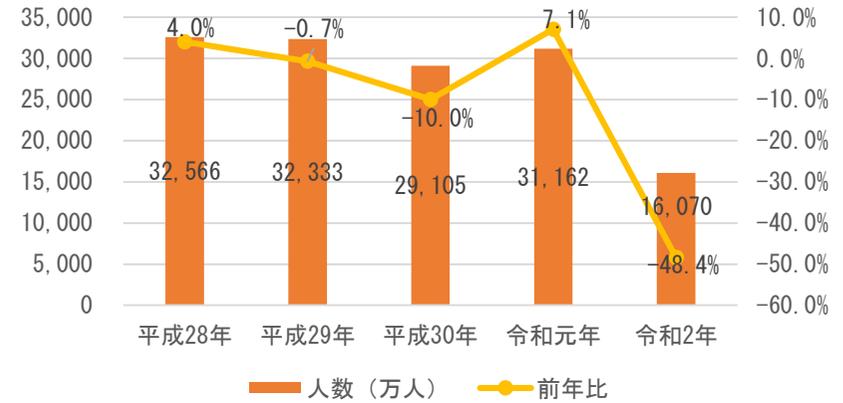
日本人国内旅行者数



出典：「2020年旅行・観光消費動向調査(観光庁)」の結果をもとに作成

グラフ②

日本人国内宿泊旅行者数



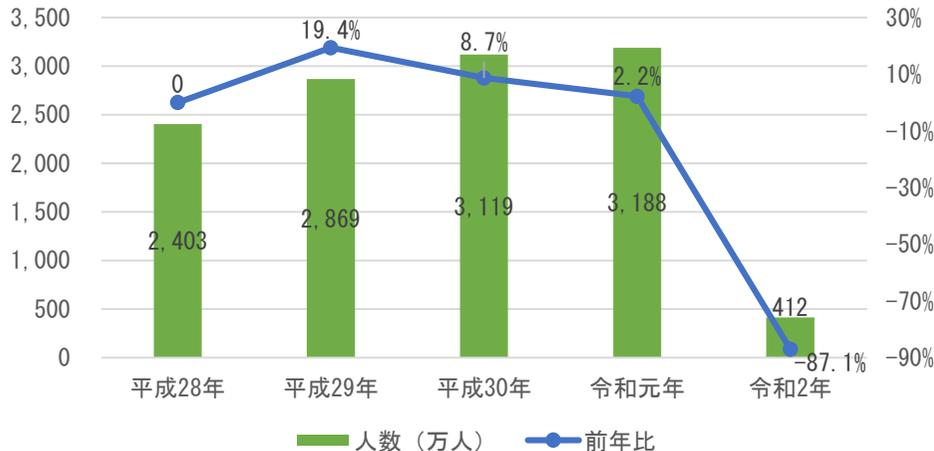
出典：「2020年旅行・観光消費動向調査(観光庁)」の結果をもとに作成

## ○訪日外国人旅行市場の概要

訪日外国人旅行者数は、増加傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、令和2年は412万人(前年比87.1%減)となりました。

グラフ③

訪日外国人旅行者数



出典：「2020年旅行・観光消費動向調査(観光庁)」の結果をもとに作成

## ○コロナ禍における旅行需要の動向

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、旅行需要は著しく落ち込んでおり、依然収束が見込めない状況であります。コロナ収束後の旅行意向調査では、「**これまで以上に旅行に行きたい**」「**これまでと同程度旅行に行きたい**」との回答は約70%となっています。また、「コロナ収束後に海外観光旅行したい国・地域」の調査では、「日本」がアジア・欧米豪で1位となっており、訪日意向に高い支持を得ています。

## ○行ってみたい旅行先・旅行先に求めるもの

国内旅行者における今後行ってみたい国内旅行先として、北海道・沖縄県・京都府・東京都・大阪府が上位にあがっています。旅行先に求めるものについては、「**自然観光**」「**温泉旅行**」「**グルメ**」「**歴史・文化観光**」が上位を占めていますがニーズは年々多様化しています。ニーズは年々変化するため、あらゆる分野に視野を広げトレンドを把握し、観光客を意識したサービスや商品の提供が求められています。訪日外国人における都道府県訪問者数は、東京・千葉・大阪・京都が上位となっています。訪日外国人旅行者の目的は、**日本食を食べる**、**ショッピング**、**繁華街の街歩き**、**自然・景勝地巡り**、**日本酒を飲む**が上位となっています。また、次回訪日時にやりたいことについては、日本食を食べる、温泉入浴、自然・景勝地巡り、ショッピング、四季の体感があげられており、日本文化・日本らしさを求める傾向が見られます。

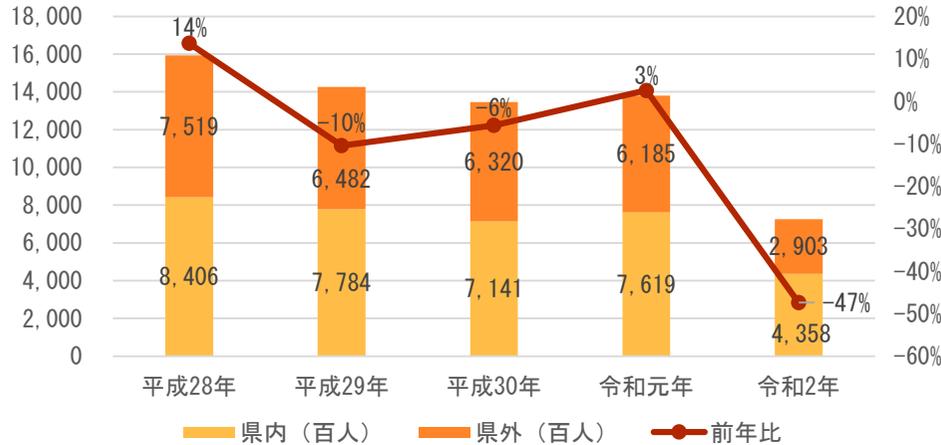
# 【参考に】千曲市の旅行市場の変化

(第三次千曲市観光振興計画より)

## ○千曲市内の観光の現状

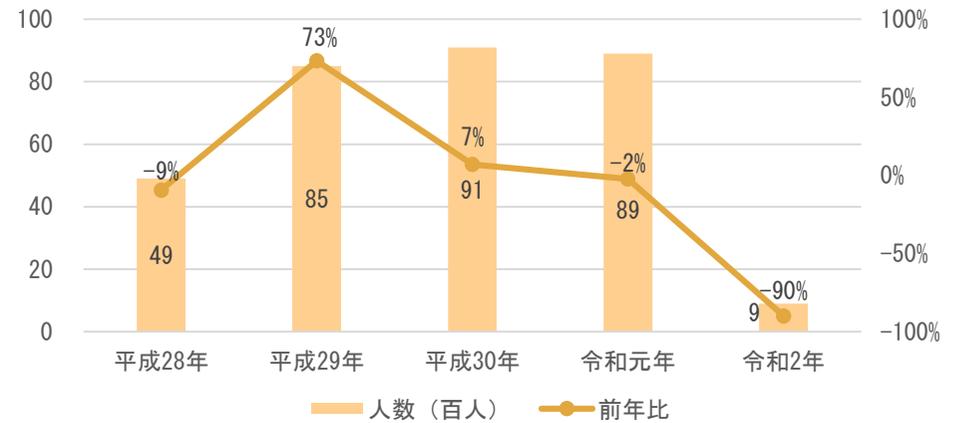
令和2年度に、市内を訪れた観光客は72万6000人(前年比47%減)と新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前年を大幅に下回りました。

グラフ④ 県内・県外からの観光客数



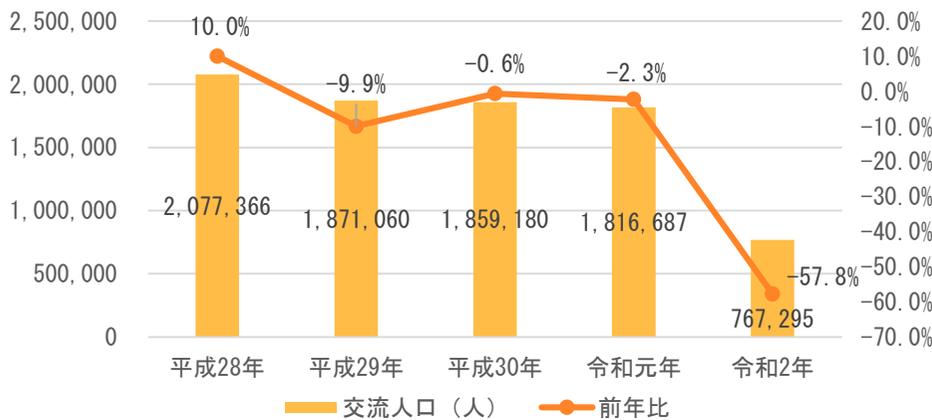
出典：「2020年旅行・観光消費動向調査（観光庁）」の結果をもとに作成

グラフ⑤ 外国人観光客数

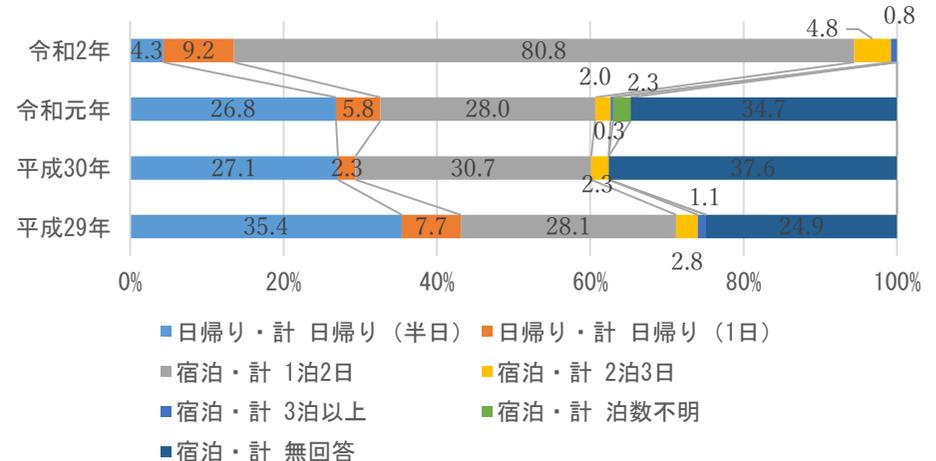


出典：「2020年旅行・観光消費動向調査（観光庁）」の結果をもとに作成

グラフ⑥ 交流人口



グラフ⑦ 滞在時間



➡ 目標値:交流人口186万人!!!

## さいごに・・・

昭和後期から平成初期に全国でも有名な「夜のまち」として栄えた戸倉上山田温泉と、県内でも有名な家族で行く温泉施設であった白鳥園ですが、時代と共に過去の栄光となってしまった背景があります。

総合運動公園の整備をきっかけに、新たな「まちづくり」がスタートします。  
まちづくりには、行政や住民だけではなく、一緒に活動していただける企業の皆さんが必須です。

新しいアイデア、実験的な取組など、まちなかで一緒に活動しながら千曲市を盛り上げるのをお手伝いいただければと思います。

千曲市は、一緒に整備や運営、活性化にご協力いただける企業を全力でバックアップします。

市の内部的にも、体制の準備が不十分ではありますが、今回の取り組みでの需要等を確認し市としても新たな取組・制度設計のきっかけになればと思っております。

